

授業科目名	人体構造学 (Structure of human body Part)		
対象学年	医学科 2 年生	単位	7 単位
科目責任者	いけがみ こうじ 池上 浩司	所属	解剖学及び発生生物学 (内線 5110)
		メール	k-ikegami@hirohima-u.ac.jp
授業方法	講義および実習中心，印刷物配布，スライド投影，光学顕微鏡観察，人体解剖学実習，学生による発表		
概要	<p>「医学一般」の「個体の構成と機能」 「人体各器官の正常構造と機能，病態，診断，治療」の「人体各器官の正常構造と機能」 「全身に及ぶ生理的変化，病態，診断，治療」の「成長と発達」「加齢と老化」</p> <p>に関連する項目を扱い，以下のことを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造を分子レベルから肉眼レベルまで関連づけて把握する。 ・人体の構造が持つ機能的意義を理解する。 ・人体の構造が形成される個体発生の過程を知り，その機構について考察する。 ・人体の構造とその形成過程について臨床医学の面からも捉える。 <p>以上のことを通じ，人間の尊厳と生命への畏敬の念を養う。</p>		
到達目標	<p>「人体構造学」は，次のユニットからなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統解剖学 2. 人体解剖学実習 3. 組織学 4. 人体発生学 <p>それぞれの目標・内容については，別に掲載する各ユニットの項を参照。</p>		
講義日程	<p>別に掲載する各ユニットの項を参照。</p> <p>なお，履修者は全員，2019年6月2日（日）に行われる慰霊祭に出席する。 また，2020年に行われる遺骨返還式に出席し，ご遺族に遺骨をお返すする。 いずれも葬儀と同様の服装で参列するので，それまでに相応しいものを整えておくこと。</p>		
評価項目	<p>試験の成績，および，講義・実習への参加態度など。 詳細は別に掲載する各ユニットの項を参照。</p>		
評価法	別に掲載する各ユニットの成績を総合して評価する。		
履修上の注意 アドバイス	<p>解剖学はそこに何かがあるかを観る（単に『見る』ではない），他のものと見分ける，有るのかわいのかを見定める学問である。教科書や図譜に書（描）かれているものを暗記する学問では断じてない。各々が自分自身の五感を使って『理解』するものである。教科書や図譜どおりの人体はこの世に存在しない。問題意識を持って探究する姿勢が大事である。</p> <p>厳しい競争を勝ち抜いてきた多くの医学生にとって，解剖学は人生で初めての大きな壁となるかもしれない。膨大な語彙と立体構造，時間軸（発生）が作り出す多次元の世界に圧倒されないよう，枝葉にとらわれずにまずは幹を見定めることが重要である。</p> <p>多次元の世界で『迷子』になったら，1年生で履修した「人間理解のための人体解剖学」の講義資料や試験，教科書（「カラー人体解剖学—構造と機能：ミクロからマクロまで」井上貴央（監訳），西村書店，2003）を読み返してみよう。あるいは，より簡単な解剖学の書物を通読してみるのもよい。例えば「入門人体解剖学（改訂第5版）藤田恒夫，南江堂，2012」や「入門組織学（改訂第2版）生木辰男，南江堂，2012」などが良いかもしれない。</p>		
推奨参考書	各ユニットのシラバスを参照のこと。		